

2018 年度

むさしの市民平和月間参加プログラム

上映会 & 前田亜紀監督トークお母さんの声から生まれた企画です

地球が平和であるための食、環境問題を考えたい～Bさん

一杯のカレーライスには、
たくさんの命がつまっています。

自然から離れた物が食品として出回っていて疑問。アレルギーにも関係しているのになぜ？～Aさん



いのちがつながって
いくということを考
えてみたい～Cさん

ドキュメンタリー映画

カレーライスを一から作る

出演：関野吉晴／武蔵野美術大学 関野ゼミ生

監督：前田亜紀 プロデューサー：大島 新 撮影：前田亜紀 松井孝行 水上智重子 編集：大山幸樹
音楽：U-zhaan 音響効果：金田智子 オンライン編集：池田 聡 整音：富永憲一 製作・配給：ネツゲン

2016年／日本映画／カラー／96分／©ネツゲン

知っていますか？「いただきます」の向こう側

日時 ● 11. 18 (日) 13:30～16:30 (開場 13:00) 13:30-上映 15:20-監督トーク 15:50-みんなで話そう

会場 ● 日本基督教団東美教会 (JR・井の頭線吉祥寺駅より徒歩 15 分)

参加費 ◆ 1000 円 (学生 500 円)

定員 ◆ 50 人

★上映中の保育サービスあります。1000 円／人 事前にお申し込みください(定員あり)。

【申込】東京 YWCA 武蔵野センター musashino@tokyo.ywca.or.jp Tel. 0422-27-5871 (水～土)

主催 公益財団法人東京 YWCA 平和と人権事業部

探 検家・医師の関野吉晴さんによる武蔵野美術大学の課外ゼミ、通称関野ゼミの2015年の活動は「一からカレーライスを作る」というユニークなものだった。野菜や米・肉はもちろん、スパイスや塩、器やスプーンまでもすべて自分たちで一から作るという途方もない計画だ。関野さんの意図は、「モノの原点がどうなっているかを探していくと社会が見えてくる。カレー作りを通して学生たちには色々なことに「気づいて」もらいたい」この呼びかけに100名を超える美大生たちが集まった。「おいしいカレーが食べたくて…」そんなつもりで始めたが、思うように野菜は育たず、雑草に悪戦苦闘。一杯のカレーのための果てしない道のりに、多くの学生が挫折する一方、世話に励むあまり家畜に愛着が湧き、殺すべきが葛藤する者も…。これは「食べる」「生きる」という、人間にとってごく当たり前で、基本的な営みを見つめ直すドキュメンタリー映画である。

関野吉晴による「食」の探検 一杯のカレーライスに何を知る？



関野吉晴

1949年生まれ。人類の足跡を辿る「グレートジャーニー」の探検で知られる。1999年植村直己冒険賞を受賞。



野菜
は？



ヒトは他の生き物を食べなくては生きられない。でも生き物って何だ。そんな単純なことがわからなくなった現代を、食の一切を体験することによって考えなおす衝撃の授業。

… 山極 寿一（霊長類学者・京都大学総長）



スパイス
は？



ひと皿のカレーライスによって社会を解説し、同時に個人の生き方まで問ってくる。なんと刺激的でクールな試みだろう。

… 平松 洋子（エッセイスト）

塩
は？



肉
は？

私たちは「たくさんの命」を食らい、自らの命を紡ぐ。今、その命を育む「食」が歪められている。関野ゼミの学生さんたちがこの歪みと格闘する姿は、動物を屠ることを生業とする者として、頼もしく感じる。

… 栃木 裕（全芝浦屠場労働組合委員長）

米
は？



たった一皿のカレーライスを食べるのに9カ月もかけるなんて、常人では思いつかない。登場する学生たちの気持ちの移り変わりが観る者の胸を打つ。最後に、カレーライスの匂いが漂ってくるような映画である。

… 藤田 和芳（大地を守る会代表）

この現代社会においてなんと酔狂な。関野さんはいつもながら「遊び」の達人。でも遊びの中にこそ「学び」があると気づかせてくれるのも関野さんなのだ。

… 高野 秀行（ノンフィクション作家）

www.ichikaracurry.com



前田亜紀（まえだあき）監督

大分県出身。2000年東京学芸大学卒業。2001年より、テレビ番組制作の仕事に携わる。NHK、毎日放送、フジテレビなどでドキュメンタリー番組のディレクターを手がけ、2016年、探検家・関野吉晴氏のゼミ活動を追ったドキュメンタリー映画『カレーライスを一から作る』を監督。映画は、公開から2年目の現在も全国で上映が続いている。昨春秋に映画を書籍化し、ポプラ社より上梓した。

【会場：日本基督教団 東美教会】 武蔵野市吉祥寺本町 4-14-9

* 当日の連絡先 *

080-4161-9036（とやま）

